

わからなさを楽しむ

本別町立勇足小学校 教諭 山内拓也

自己紹介

- 名前 山内 拓也（やまうち たくや）
- 十勝管内本別町出身
- 弟が重度の知的障害を有している。（きょうだい）
- 北海道教育大学大学院教育学研究科修了
→ 『障害のある方の親なきあと問題』を研究
- 本別町役場・本別町教育委員会（3年）
- 本別町立勇足小学校 教諭（4年目）
- 現在は地域型インクルーシブ教育の理論をもとに、
河川教育などの自然体験教育を方法として子どもたちと共に学んでいます。

事業所紹介

- 本別町立勇足小学校（十勝管内）
- 周りを畑に囲まれた農村地帯
- 児童数29名のいわゆるへき地・小規模校
- 学校には田んぼがあり、米作り体験をしている
- 近くには利別川が流れており、河川学習をしている
- 保護者（地域）を密につなぎながら、一人一人を全員の先生が見守り、大切に育てている

きょうだいの紹介

- 重度の知的障害を有する
- 自閉症傾向がかなり強め
- 気持ちの切り替えが苦手
- アドバイスを怒られたと勘違いして逆ギレ
- 怒られても逆ギレ
- コミュニケーション能力高め
- てんかんやIgA腎症など別の病気もある
- 足の手術をしており走るのが苦手
- YouTube大好き・iPad得意
- 養護学校に3年間通っているうちに、友達（知っている人）は町からいなくなった。（浦島太郎状態）
- B型事業所で働きながら生活している

きょうだいとしての歩み

1. 弟は「わからない」ではなく「これが私の弟」だった
2. 「お兄ちゃんなんだから」が嫌いだった
3. 同じ境遇の友達は、別の歩みをしていた
4. 「過剰適応」するようになった
5. もっときちんと「障害」について知りたくなった
6. 母親に「お前は何も知らない」と言われた
7. 「ハンバーグを二つにしたら食べる」からの学び
8. わからないを前提に知ることを楽しむ

自治会活動や地域のスポーツ活動に参加して「カオツナギ」



教員として

- Aさんは人に特殊なあだ名をつけて呼んでいた
→子どもの行動・言葉には「意味・文脈」がある
- Bさんはタブレットを活用する力に長けていた
→「得意を知る」ことは「わかる」につながる！
- Cさんは体験から学習するのに長けていた
→一緒にした体験は「共有（わかり合える）」できる！
- Dさんは教師が媒介になるとたくさん思考できた
→本人の「わからないに寄り添う」ことは「わかる」
にもつながる